

村祭りの思い出

駒澤大学名誉教授

佐々木宏幹

この歌が作られたのは明治四十五年（一九一二）であるとされるから、もう一〇八年も前のことである。

集団は、豊前国（現在の福岡県東部）の田川・京都などの集団と南部の宇佐・下毛などの集団により構成されていた。したがつて祭祀の中心は豊前国綾幡郷あたりにあり、ここに「ヤハタ神」の名が発生したのかかもしれないとされている。この信仰はやがて宇佐地方に伝播し、宇佐の比咩神を祀る信仰と融合した。

八幡神として中央進出を企てたのは聖武天皇(七一四~七四九)が東大寺の地で大仏の造立を発願した頃で、当時の司祭者大神氏は進んで朝廷に接近し、八幡神の託宣により大仏铸造に伴う数々の問題が解決した。天平勝宝一年(七四九)東大寺ができると八幡神の地位と力が高まり、国家の大事に関わった。とくに呂道鏡(りょうどうきょう)の野望を託宣により

したので天台僧に親しまれ、
延暦寺の僧金龜は天長四年
(八二七) 豊後国（現在の大分県南
部）に由原宮を勧請し、「宮
寺」という新しい信仰形態を
造った。この影響により大安
寺僧行教によつて貞觀一年
(八五九)、八幡神は山城国（現
在の京都府中・南部）男山に勧請
され、翌年石清水八幡宮が建
立された。その頃から応神天
皇、神功皇后の神格が重視さ

たちにより信仰され、八幡大菩薩への信仰は日本全国に伝播し武神としての性格が強まつた。現在八幡宮に関係する神社は全国に四万余社あるといふ。

実は私が育った寺にも八幡神社がある。この神社が建てられたのは私が小学校の一年生のときであるから、昭和十二年（一九三七）であり、日中戦争（支那事変）が勃発した年

朝から聞こえる笛太鼓

いろいろな説があり特定は困難らしい。海神、鍛冶神、ヤハタ(地名)神、幡を立てて

して天皇の治病に参内した
といふ。欽明朝（五三九～五七
二）の頃に大神比義なる巫者

合」の先駆となつた。最澄を空海が八幡信仰に近づき、寺院鎮守として盛んに勧請し

つた。
その後、源頼信など清和源氏が八幡神を氏神とし、八幡宮へ参詣する風習が定着した。

鎮守は鎮主とも書く。その地を鎮め守る神である。この神の祭りを歌つたのがよく知られる「村祭」であろう。

(日中戦争)が始まつた頃とあつて、金鶴勲章を胸にしたS爺さんはモテモテであつた。

鎮守とは

発行日 |
令和3年1月1日

62

発行所 | 有限会社 仏教企画
〒252-0116
神奈川県相模原市緑区城山4-2-5
Tel. 042-703-8641
Fax. 042-782-5117

発行人 | 有限会社 仏教企画代表 藤木隆宣

発行人 | 有限会社 仏教企画代表 藤木隆宣
Email | fuiiki@water.ocn.ne.jp

季節はひんやりと秋を感じさせる頃であった。時代は昭和十二、三年。当時の大人たちの服装は着物と背広(洋服)が半々であつたが、近くに住んでいた七十代ぐらいのS爺さんは、日露戦争で手柄を立てたというので、功七級金鶴勳章を授与された人で、村では有名人であつた。S爺さんは金鶴勳章と従軍徽章^(きしょう)を着物の左胸に下げて、悠然と祭りに現れるのが常だった。



1 漢訳文献で言うと、抄本には伽梵達摩訣『千手經』(大正No.1060)の他不空に帰せられる『千手千眼觀世音菩薩大悲心陀羅尼』(大正No.1064)、同『大慈大悲救苦觀世音自在王菩薩広大円滿無礙自在青頸大悲心陀羅尼』(大正No.1113B)がある。一方、広本には金剛智訣『千手千眼觀自在菩薩広大円滿無礙大悲心陀羅尼呪本』(大正No.1061)、訣者名欠『番大悲神呪』(大正No.1063)、不空注『青頸觀自在菩薩心陀羅尼經』(大正No.1111)、金剛智訣一行筆受『金剛頂瑜伽青頸大悲王觀自在念誦儀軌』(大正No.1112)、指空讎校(しゅうこう)『觀自在菩薩広大円滿無礙大悲心大陀羅尼』(大正No.1113A)などがある。

第五回
最終回

東洋大学文学部教授
渡辺章悟



『千手千眼觀世音菩薩廣大圓滿無礙大悲心陀羅尼經』

「唐西天竺沙門伽梵達摩譯」

廣大圓滿無礙大悲心大陀羅尼神妙章句陀羅尼

和訳	語句の註解	
悉陀夜 婆婆訶 <small>しふらやー そもこー</small>	<p>成就した者に スヴァーハー!</p>	<p>「しふらやー」は、「成就する、達成する」を意味する動詞√ siddhの過去分詞siddhaの与格(シッダーヤ siddhāya)で、「成就した者に」。「そもこー」(婆婆訶)はスヴァーハー (svāhā)「幸いあれ!」</p>
摩訶悉陀夜 婆婆訶 <small>もこしふらやー そもこー</small>	<p>偉大なる成就者に スヴァーハー!</p>	<p>「もこ」(摩訶)は、「偉大な」を意味する形容詞。「しふらやー」(悉陀夜)は、シッダ(siddha 成就者)の与格「シッダーヤ」(siddhāya)で「偉大なる成就者に」。スヴァーハー (svāhā)「幸いあれ!」。春日版、敦煌写本系では欠。高麗藏系では、前の句との文節がない。</p>
悉陀喻藝 室幡囉耶。婆婆訶 <small>しふらゆぎー しふらやー そもこー</small>	<p>ヨーガ行法に自在なるものに スヴァーハー!</p>	<p>「しふらゆぎー」(悉陀喻藝)と「しふらやー」(室幡囉耶)と区切って読むが、正しくは不空訳(No.1111B)「悉駄裕儕濕囉羅也」のように、シッダ・ヨーゲ・シュヴァラーヤ(siddha-yogesvarāya)で、「ヨーガ行法に自在なるものに」の意味。ヨーゲ・シュヴァラ(自在神)は一般的にはシヴァ神のことであるが、ここでは觀自在菩薩を指す。なお、春日版、敦煌写本系、高麗藏系では「室幡囉耶」を「室幡囉」とする。</p>
那囉謹墀 婆婆訶 <small>のらきんじー そもこー</small>	<p>青頸〔観音〕に スヴァーハー!</p>	<p>「のらきんじー」(那囉謹墀)は、ニーラカンタ(nīlakanṭha 青頸)の呼格。ここでは不空注(No.1111)「顙羅塞婬引也」の与格(nīlakanṭhāya)をとる。</p>

すぐ近くにある村社八幡神社とはどういう付合いをしたのかもはつきりしない。

仏教のお寺が神道の八幡神を祀るのはおかしいではないかと意見する人はいなかつた。一神教を信奉する国々ではとても考えられないことであるが、何しろこの国では八幡神は「護国靈験威力神通大菩薩」であり「神仏習合」(神と仏が習わすこと)の実現はそう無理な事態ではなかたと言えよう。

私は小学校の同級生と一緒に、年に一度の「村は總出の大祭」(おまつり)に毎日通った。

私がよく知っている高等科の女性教師が割烹着を着て、大声で「芋の子汁のホヤホヤ」と叫んでいるのには驚いたものである。

何しろ一億総力戦の時代である。この女性教師の行為を誉めこそすれ貶す人はいなかつたと思う。

祭りには必ず神樂が行われたが、その主人公は素戔鳴尊であった。この神は天照大神の弟であるが、凶暴のゆえに

である。このときに祖父は近くの山の上にあつた小さな社殿に祀られていた背丈一メートルほどの八幡神の古ぼけた神像を修理して新築の堂に祀つたのである。八幡神が武神であることを知つて、いた祖父はこの神を奉祀して、軍に召集された檀信徒たちの武運長きを祈念したものと思われるが、時流に乗った感もある。この八幡神は応神天皇であると教わつたが詳しいことは分からなかつた。

すぐ近くにある村社八幡神社とはどういう付合いをしたのかもはつきりしない。

仏教のお寺が神道の八幡神を祀るのはおかしいではないかと意見する人はいなかつた。一神教を信奉する国々ではとても考えられないことであるが、何しろこの国では八幡神は「護国靈験威力神通大菩薩」であり「神仏習合」(神と仏が習ね合わさること)の実現はそういう無理な事態ではなかたと言えよう。

私は小学校の同級生と一緒に、年に一度の「村は總出のおおまつり」に毎日通つた。

私がよく知つてゐる高等科の女性教師が割烹着を着て、大声で「芋の子汁のホヤホヤー」と叫んでいるのには驚いたものである。

何しろ一億総力戦の時代である。この女性教師の行為を誉めこそすれ貶す人はいなかつたと思う。

祭りには必ず神樂が行われたが、その主人公は素戔鳴尊であった。この神は天照大神の弟であるが、凶暴のゆえに

好くて忘れられず今でもその語りを憶えているのである。神楽の舞台は高さ二メートルほどか、四面が土色の布で覆われ、舞台の下が神楽の演者たちの控え所であった。私は舞台の上で華々しく振舞つていた人たちは面を外したらどんな顔をしているのか知りたくて、舞台下の彼らの控え所に行つてみた。普通の農家のおじさんたちであり、舞台の上の姿とあまりにも違うのでガッカリしたのであつた。

にはこの意味をめぐつて忘れられない思い出がある。

村社八幡神社の神主（神官とも言っていた）はなかなかの遣り手の人で、神殿の縁の下に特別な場所を作つて稻荷神を勧請して祀つていた。この神は五穀をつかさどる倉稻魂（うかのみたま）であり、狐はこの神の使いであるという俗信が民間には広く信奉されていた。稻荷神を祀つてある場所は頑丈な柵で囲まれており、外からは見えなかつた。そこには狐の神（稻荷神）があり、油揚げが大好きだというので人びとは神社に油揚げを持参した。その油揚げは稻荷神が食するので、次の日にはなくなつてゐるといふ噂が広がつていた。私にはとても信じられないことであつた。

沢山の油揚げを使って稲荷寿司を作り食したのであろう。ところで私が現在住んでゐる横浜市北西部のある街のマンションの近くには、M神社という立派な神社があり、祭神は素戔鳴尊である。この地域は戦後に開発されたところで、戦前には大部分が農地であり農民が主な住民であつた。M神社は農民たちの氏神であつたらしい。

ちなみに私が現在暮らしているマンションの土地もWさんという人の所有地であつて、Wさんはこの辺りに広大な邸地を持つていたらしく、あとちにマンションを建て、東京方面から溢れだしてきたと勢のサラリーマンたちに住居を提供している。

Wさんの今の自宅は元農家とは思えない豪邸である。

WさんはM神社の氏子集団の役員であり、毎年秋に行われる祭りには御輿の先導役を務める。Wさんが先導する御輿が笛や太鼓の音と共にワッショイ、ワッショイと勢いよく付いてくるのを目にする。この地へと引越した人たちによく「秋」を実感するのである。

私もその一人である。

ところで「祭り」という多くの人は「神社」を想起するのではなかろうか。祭りは神道というのが多くの人の意識になつてゐる観がある。これは仏教に祭りはないのか。

手近な例では釡尊の生誕を祝う祭りを「花祭り」と呼ぶが、ほかに何があるので、「祭りあげ」(祭上げ)といふ言葉は、死者の最終年忌を

し、三十三回忌や五十回忌のこととで、葉付きの塔婆を立て「まつりおさめ」とも呼ばれる私もかつて「祭りあげ」に出たことがあるが、そこでは「弔い上げ」と呼んでいた。「問い合わせ」とか「問い合わせ切り」とも言う。

この営みを機に仏が神になるとか先祖になる、あるいは天にのぼるとする地域もある。こうして習俗の裏には神道と仏教の相關関係があるようだが、ここでは触れない。一般の人びとの見方では「神道」「この世」「生者」、「仏教」「あの世」「死者」となるヒューリック、これが日本宗教の大枠と觀られているのではなかろうか。

生きている間は「神さま死んだら「仏さま」という死生観は、近來の社会変化の由にあつてもなお大半の日本人の常識ではないか。「お互いさま」の精神の発想である。

この「お互いさま」の精神にあたることを高く評価しているのが作家・数学者の藤原

正彦氏である。

氏は「東日本大震災が生じたとき、被災者たちは粉雪の舞い落ちるなか、一列に並んで食糧トラックが来るのを待ち、トラックが来ても他国で見られたように我がちに殺到する者もなく肅々とおにぎりを一つもらうと、深々とお辞儀をし、水をもらった人はもらえなかつた人に半分分けていた。世界中がこれに驚愕した。今回の新型コロナウイルスに際しても三七度五分以上の熱が四日間続く場合には受診するという専門家会議の指針を忠実に守っているから、医療崩壊が起きずに死者数が抑えられている」（藤原正彦著「どちらが恐い」『文藝春秋』五月号二〇二〇）と述べておられる。

「何事もお互いさまなのだから協力し合おう」という精神は「村祭り」のときの村人たちのそれとよく重なるのではなかろうか。

村祭りは日本人の行動様式の基本を示しているとも言えよう。



受持し、忘れないことを誓う。そこで大梵天王が本呪を修行すべきことを宣説する。そこでは大梵天王が本呪を誓う。

千手經の趣旨と大悲心陀羅尼

「大悲心陀羅尼」は以上で終わるが、『千手千眼陀羅尼經』(千手經)では、さらに次のようく描寫している。

「觀世音菩薩がこの呪を説き終わると、大地が六種類に震動し、天の神々たちは宝玉の花を雨ふらせ、花弁は下にみだれ落ちた。十方の諸仏たちはみな歓喜し、欲界の最高位にある第六天(他化自在天)の魔王波旬や外道たちは恐怖で身の毛が逆立つた。その会座に集つたすべてのものは、みな悟りの果報を得ることができた。あるものは、聖者の最初の位である須陀洹果預流果(來果)に、あるものは阿那含果(還果)に、あるものは阿羅漢果(つまり声聞の四つの位)四沙門果を得た。また、あるものは初地(歡喜地)から第十地(法雲地)にいたる菩薩の位(十地)を得ることができ、無量の生きとし生けるもの(衆生)は悟りを求める菩提心をおこした」という。

次いで、この会座にいた梵天王が「大悲心陀羅尼」の相貌(様相)について質問すると、觀世音菩薩は、大慈悲心、平観心、恭敬心、卑下心、無雜心構えによって大悲心陀羅尼を修行すべきことを宣説する。そこで大梵天王が本呪を誓う。

「千手千眼」となって守護す

る。これまでの記述からわかるように、「千手經」の趣旨は

大悲心陀羅尼の宣説である。

これまでの記述からわかる

ように、「千手經」の趣旨は

大悲心陀羅尼の宣説であ

る。これまでの記述からわかる

ていきますから、私たちも実践した上で、眞実の深みをお伝えすることをいつまでも忘れないようにしたいと思うんです。

私のところにも数々の悩みを抱えた方がお越しになりますが、現代に蔓延する自己肯定感の低さは、自分ができることがたくさんあるのに見えなくなる、自分には変化する力もあることまで忘れてしまって、そしてその救いを求めているようを感じるのです。自分に関する悩みや懸念をたくさん抱え込みながらも、自我が強かつたりして、自分のことばかり考えてしまう傾向が見られます。そういう方にはできるだけ余計なものは捨ててしまい、解放されることを勧めています。まさに放下著です。

そういう人がお寺を何かを



龍泉院の参禅会は始まってから四十九年になりました。それまでも個別でお越しになり私と一緒に坐禅をご希望の方はいましたが、会という形でスタートしてから来年で五〇年です。初めて会として開催したときの参加者は八名、過去に一度だけ一人も参加者がなく私ひとりで坐禅したことあります。それが今では多

しをする雰囲気はありませんから、本当に素晴らしいですよね。参禅会四十周年のときには会の皆さんのご希望から坐禅

人間は飲食を共に
実際に色んな話ができる

堂を建設することにも至りました。それはとてもお金が掛かることですが、ある方が大きな金額を申し出てくださつた。それに合わせて周りも進んだんです。おかげで大変幸

人間は飲食を共にすると胸を
実に色々な話ができますから

いと四〇名ほどとなり市外や県外からも通つてくださっています。また、長く続けていますので、十数年前にお休みして以来今度は親子でまた参加くださる、なんて方もいますね。

前で拍手をなさうなりの企業や大学の学園祭へ行つて出張坐禅を開催したりと、実際に積極的に自発的に活動してくださっています。作務も積極的に務めてくださり、境内は作務の方々のおかげで草木の手入れが行き届いているようなものです。

外で作務をしてくださる方々がときどき、日当たりや風の通りが気持ちいい場所を見つけてテーブルと椅子を出しててくれるのでみんなでお茶を飲みます。人間は飲食を共にするときにすると胸を開き、実に色々な話ができますから、そこでもまた懇親が深まるわけです。今年は色々な制限もありますが、三密を避けるなんていうのは考えてみると非宗教的行為にも思えます。参禅会の方々は私たちにとつて、なくてはならない存在ですから。

敵な坐禅堂ができました。参禅会による会報誌は三〇年以上続き、常に前よりもさらに良い会報を作りたいと意欲的ですし、歳末になると駅元鉢をなさつたり、市内や大学の学園祭へ行つて坐禅を開催したりと、積極的で自発的に活動してゐます。

いが一〇名ほどあつたおかげです。飾り付けから片付けまでお任せでした。他にも毎年二月十五日のおねはん会、四月八日の花祭り、十二月の戒道会も、参禪会の方々がどんどんやってくださるんですと私たち龍泉院の特徴かもしれませんね、ありがたいことです。

A black and white photograph of a traditional Japanese garden. In the center is a large, ornate building with a dark, curved roof and intricate architectural details. A paved stone path leads from the foreground towards the entrance of the building, flanked by several large, well-pruned spherical hedges. The background is filled with more trees and foliage, creating a sense of depth and tranquility.

椎名宏雄老師

イ ン タ ビ ュ ー

—二〇一八年に上梓された『やさしく読む参同契・宝鏡三昧』に関し、参同契と宝鏡三昧への思いをお聞かせください。

両大本山の雲水さんと役寮さんたちにもお送りしたんです
曹洞宗門の皆さんには暗記しているものの、毎朝の仏祖諷経で実際にお経の意味を意識することはそうないでしようから、改めて意味の振り返りをして参考になつたとか、中に

は失念したので思い出した、
またはこういう意味だったか
と認識を改めたなどの感想も
いただきました。

ね。本のタイトルにはやさしく読む、と書いてありますが、これは元々雑誌『大法輪』の連載名でもあったので、中国の禅の時代背景や流れがわからぬといふと、この本だけでは少しあるかもしません。ゆつくり何度もご覧いた

の独特な使用について解説しています。「明」には、昼間の光に照らされたことによつて、木々や草花が個々に多様な姿であることが示されること、対して「暗」は、暗いという意味

A black and white portrait of an elderly man with a shaved head, smiling broadly. He is wearing a dark, traditional Japanese robe (yukata) with a visible patterned sash (obi). The background shows a window with a grid pattern.



藤木隆宣

十一月一日の第五十二回全日本大学駅伝では久しぶりに涙がこみ上げてきた。三強と言われながらも大方の予測は青学、東海、駒大であったのが大会新の優勝。全国津々浦々でテレビ、ラジオで見聞きされたと思いますが、田沢選手のラストスパートは見事だつた。この時涙が自然と込み上ってきた。やはり母校には愛着があるのだと思った。

椎名宏雄老師の坐禅会はすごいですね。継続だけでなく、出張坐禅会もされたとは恐れ入ります。実際に学ぶべきことが多い内容です。

大本山永平寺の貫首猊下が九月二十九日に交代された。新貫首南澤道人禪師は宮崎奕保禪師より一つ年上で猊座に御坐りになられたようです。

七十六歳の私にとりましてはそこまで生きられるかどうかの御年ですが、永平寺は世界の禅道場の中心です。このところ禅仏教からの発信が少ない事に残念な思いを持つている一人です。新体制になられる身近なところにおられる雲水さんや宗門、日本の仏教界に新鮮な空気を発信して頂きたいと願うものです。今後の世界は仏教の世界観への期待があります。供養仏教と合わせてコロナ禍の中での仏教徒の立ち位置をしっかりと示す必要中での存在感がどんどん薄れて参ります。また宗門では人

材育成が叫ばれて久しいのですが、全くその体制にならない体質があります。とても残年なことです。

人材と申しますと、次世代を担っていくお子さんたちを預かる施設にとつても、厳しい状況が続いています。ここで私の関係している保育園と児童養護施設から見えてくる問題点を皆様と考えてみたいと思います。

私が理事長を務める社会福祉法人輝雲会では、福井県越前町で「たいら保育園」、神奈川県相模原市南区で「あおいそら保育園」を運営しています。それぞれに園長がいて責任をもって子どもの発達を支援する内容の保育を行っています。

現在は都会地では保育園が足りず待機児童を抱える地域もありますが、地方の多くは少子化でどの保育園も子どもを集めで四苦八苦ではないでしょうか。マスクは待機児童のことだけを取り上げますが、

たいら保育園は少子化の波を容で地域の支持を受けて何とか頑張っている状態です。保育内容で地域の支持を受けて何とか頑張っている状態です。それが保育園では年齢に応じた園児の発達を支援するためつています。問題は保育の内

児童養護施設の職員は大卒、

保育士の資格を取るために短大、専門学校で学び資格を得ます。小、中学校は義務教育ですが、「年齢に応じた保育とは」科書があり問題点はいろいろあります。曹洞宗は寺院の数も多く保育園、幼稚園を運営しておられるご寺院も多く保育内容についてどうお考えかお聞きしてみたいものです。

手まり学園

寄附者御芳名

R2.8.6～R2.10.31

所在地	寺院名(個人名)	金額
東京都	砂金智佐(105)	3,000
神奈川県	青木義次(86)	9,000
東京都	砂金智佐(106)	3,000
東京都	砂金智佐(107)	3,000
神奈川県	青木義次(87)	9,000
佐賀県	朝元寺	5,000
東京都	砂金智佐(108)	3,000
東京都	砂金智佐(109)	3,000
合 計		38,000

てまり学園にご支援をいただき誠にありがとうございます。



写真体験をしました（相模原市緑区 日庭寺にて）

曹洞禅グラフ 2021春・彼岸号特集予告 2021年2月10日 発刊予定

参加者 | 有馬嘉男(NHKニュースウォッチ9キャスター)

石澤良昭(元上智大学学長)

三部義道(SVA副会長)

司会 | 藤木隆宣

鼎談 コロナ禍のいま 日本佛教は何を担い得るのか

仏教企画発行の刊行物 (*部数により割引があります) すべて税別価格です

『修証義』解説 丸山劫外著	1,400円★
『うたい継ごうよ、子守唄』 長田暁二・西館好子共著	1,200円★
『まんが問答一期一話』 文平和宏昭 まんが垣内敬遠	1,200円★
『葬送のしおり』 長井龍道著	30円
修証義読本『生老病死』 須田道輝著	500円★
『曹洞宗檀信徒経典』 須田道輝解説	300円★
曹洞宗檀信徒必読『供養のすべて』 瞳元丈法著	140円★
曹洞宗檀信徒必読『葬儀のすべて』 瞳元丈法著	150円★
隨想集 玉崎千鶴子 その永遠の世界を探って	500円

曹洞禅グラフ

発行日

春 彼岸号	2月10日
夏 お盆号	5月30日
秋 彼岸号	8月20日
冬 正月号	10月30日

1部 200円

9部以下	200円
10部以上	150円に割引
20部以上	135円に割引
50部以上	130円に割引
100部以上	120円に割引
200部以上	110円に割引
300部以上	100円に割引
500部以上	90円に割引

*『仏教企画通信』を10部以上購読希望の方は一部100円で発行します。同封はがきの空欄にその旨をお書きください。(消費税、送料別)

お申込み

仏教企画

〒252-0116 神奈川県相模原市緑区城山4-2-5 ※住所・FAX番号が変わりました
TEL: 042-703-8641 FAX: 042-782-5117 Email: fujiki@water.ocn.ne.jp

※ご寺院名後の番号(3桁もしくは4桁)がお客様番号(コード)になります。
お申込みは ①ご寺院名 ②お客様番号 ③電話番号でも可能です。